

医薬品に関わる仕事

取材・文／伊藤敬太郎 イラスト／桔川 伸

コロナ禍でますます注目度アップ！ 高い専門性が求められる仕事が多い

医薬品に関連する仕事というとなぜか薬剤師が思い浮かぶが、それ以外にも、医薬品を作るために必要な仕事、販売するために必要な仕事は多数ある。ほとんどの仕事で高い専門性が求められるのが医薬品業界の特徴で、だからこそやりがいも十分。医薬品を通して人々の健康に貢献したいという高校生は要チェックだ。



MSL (メディカルサイエンスリプレゼンター)

製薬メーカーで、医学的・科学的な専門知識に基づいて最新の治療法に関する情報収集や情報提供を行う仕事。MRが自社の医薬品に関する情報提供を行うのに対して、より幅広く科学的・客観的立場から医師などへの情報提供を行うのが大きな特徴。

MR (医薬情報担当者)

医師や薬剤師などに医薬品に関する情報提供を行う仕事。製薬メーカーの社員として自社の医薬品の情報提供を行うMRのほか、MRを派遣する企業に属し、複数メーカーの医薬品を扱うコントラクトMRがいる。薬剤師などの専門資格を活かすこともできる。

医薬品に関する情報提供

医薬品に関する情報提供

医薬品開発のプロセス

新しい薬を作るためのプロセスは大きく下の4つの段階にわけることができ、トータルで10年、20年といった長い期間が必要となる。天然素材からの抽出や化学物質の合成によって新薬のもとになる物質の候補を見つける基礎研究を経て、候補となる物質の薬効や毒性を動物や細胞を使った非臨床試験で確認。次に、人を対象とした臨床試験に進み、十分な薬効と安全性を確認した後、厚生労働省に申請を出して承認を得るといった流れだ。

基礎研究
2～3年

非臨床試験
3～5年

臨床試験
3～7年

承認
申請審査
1～2年

製薬メーカー

医薬品を開発・販売する企業。日本には大手・老舗の製薬メーカーも多いが、最近は外資系企業の進出も目立っているほか、最新技術を活用した大学発の創業ベンチャーなども数多く登場している。生物学や化学の専門性が活かせる分野なので、自社の技術力を応用し、創業事業に取り組む食品メーカーや化学メーカーも多い。

●食品メーカー ●化学メーカー
●化粧品メーカー

生産技術

製薬メーカーにおいて、安全性と効率性を重視した製造工程・品質保証体制を構築する仕事。機械系の専門性を活かすことができる。

品質管理

販売前の医薬品が一定の品質基準を満たしているかどうかを検査・管理する仕事。薬学や化学の専門性を活かすことができる。



研究開発

製薬メーカーや研究機関などで医薬品の研究開発に携わる仕事。修士以上の高い専門性が求められることが多い。一口に研究開発といってもその仕事内容やバックグラウンドは多様だ。化学や薬学の専門性を活かして新たな化合物の基礎研究をする研究者もいれば、遺伝子工学の専門性を活かして生物学的なアプローチで研究開発を行う研究者もいる。

博士課程(3年)

修士課程(2年)

薬剤師 資格取得

6年制薬学部

薬剤師の国家資格を得るためには6年制の薬学部への進学が必須。そのため薬剤師を目指すなら進学時に進路を明確にしておくことが重要。

4年制薬学部

薬学部のなかに研究職養成を目的とした4年制の課程を設けていることも多い。研究職を目指すなら、修士課程への進学はほぼ必須だ。

登録販売者

一般用医薬品を販売するための専門家。処方箋を必要としない一般用医薬品の多くは、薬剤師がいなくても登録販売者がいれば販売できる。資格が必須だが、未経験でも挑戦しやすい。

薬剤師

医薬品に関する幅広く専門的な知識をもつスペシャリスト。医師の処方箋に基づき医薬品の調剤は薬剤師でなければならない。近年は医療の分野で、多様な専門家の力を活かすチーム医療が浸透しており、患者の治療に対する薬剤師の貢献度はさらに高くなってきている。調剤薬局やドラッグストア、病院で活躍するほか、MRや研究開発職として就職するケースも。

調剤薬局／ドラッグストア

医師が処方する医療用医薬品を扱うのが調剤薬局。処方箋なしで買える一般用医薬品を扱うのがドラッグストア。調剤薬局を併設しているドラッグストアも多い。

大学

大学は、教育機関として薬学部や生命科学部、理工学部(化学系)などで人材の育成に貢献しているほか、研究機関として、主に基礎研究の領域で新薬につながる研究にも取り組んでいる。



生命科学部など

生命科学を扱う学部・学科で遺伝子工学などを学び、医薬品メーカーで研究職を勤める人も多い。

理工学部(化学系)

理工系学部の化学科などで得られる化学の専門性や実験の技術なども研究職に活かせる。

最新の業界事情

バイオ技術やiPS細胞を活用した開発が進む

近年医薬品開発で注目されている領域の一つがバイオ。遺伝子工学の最新技術を活かし、がん治療、糖尿病治療などの分野でそれまでになかったバイオ医薬品が続々と生まれている。iPS細胞を活用した医薬品開発も注目されている。臨床試験への応用、アルツハイマー病やパーキンソン病などの治療薬開発への期待が高い。開発手法に関して注目されるのはAIの導入。研究開発の期間短縮や成功確率向上に大きく貢献すると見られており、業界内ではAI技術者の活躍のチャンスも広がっている。

薬の専門家として 日々患者さんを支える

職種 PICK UP!!

薬剤師

日本調剤株式会社
薬事採用センター 札幌支店
じん ゆきひ
神 悠希妃さん(27歳)



北海道帯広柏葉高校、北海道医療大学薬学部卒業。6年制薬学部卒業で受験資格を取得し、卒業年である2019年の薬剤師国家試験に合格。同年、新卒で日本調剤株式会社に就職し、日本調剤 余市薬局に配属。2021年5月、薬事採用センターに異動。

神さんは2021年4月まで北海道の日本調剤 余市薬局で薬剤師として働き、現在は薬剤師の採用を担当する部門で活躍している。薬剤師は、医薬品に関しては医師以上のスペシャリストだ。神さんは店舗に置かれている2000、3000の医薬品に関する情報はすべてインプットしているという。「それぞれ効能はもちろん副作用なども頭に入れています。新しい薬に関しては、社内の教育コンテンツなどを利用して、そのつど勉強。機械的に暗記するとなると大変ですが、頭のなかで系統立てて整理して理解しているので、スムーズに覚えることができます」

医師の処方箋に従って薬を用意するが、その際に大切なのは正確さと慎重さ。常に2、3人の薬剤師がチェックするという。また、薬の種類や量に関して疑問があれば、医師に問い合わせて確認すること(「疑義照会」も大切な仕事だ。「患者様の相談に乗り、症状や改善状況、薬の服用状況などを見ながら、医師に処方に関する提案を

この職業に就くには

薬剤師になるためには薬剤師の国家資格が必須。国家資格を得るためには6年制の薬学部を卒業しなければならないので、薬剤師を目指すのであれば、高校時代に進路を明確にしておくことがポイント。調剤薬局で働くほか、ドラッグストアや製薬メーカーの研究開発職など薬剤師の働き方は多様化が進んでおり、神さんのように社内でもキャリアアップする道も

神さんの「日」

調剤薬局で働いていた当時は、9時前に出社し、在庫管理から仕事が始まる。16時くらいまで20件ほどの調剤を行う。夕方は患者さんの自宅や施設などを訪問し、薬を届け、服用状況や副作用の確認を行い、18時頃に終業。

することもありますが、自分の提案が通って患者様の役に立てたときにはすごくうれいですね」

患者さんの不安材料を取り除き、安心して薬を服用できるようサポートすることが薬剤師の役割。医師には聞きにくくても薬剤師だから心を開いて相談できることもある。だからこそ、患者さんとの日々のコミュニケーションも大切だという。